月　日 名前

／100点

【小4】国語 文章問題　説明文 2

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

夏の暑い日に外を歩いていると、木のかげや建物のかげに入りたくなります。かげに入ると、同じ場所にいるのに、すっと体が楽になります。どうして、日かげはすずしく感じるのでしょうか。

日なたにいるとき、わたしたちの体には、太陽の光がじかに当たっています。光が当たると、はだやふくはあたたまります。黒いふくを着ていると、とくに熱く感じるのはそのためです。日かげに入ると、この光がさえぎられるので、体があたたまりにくくなるのです。

もう一つ、足もとにも目を向けてみましょう。日なたの地面は、一日中光を受けて、熱くなっています。熱くなった地面からは、下からも体に熱がつたわってきます。日かげの地面は光を受けていないので、日なたほど熱くなりません。だから、上からも下からも、あたたまりにくいのです。

木のかげが、とくに気持ちよく感じられるのには、べつのわけもあります。木の葉は、根からすい上げた水を、少しずつ空気の中に出しています。水が空気の中へ出ていくとき、まわりの熱をうばうので、木の近くの空気はひんやりとしてくるのです。

夏の町を歩くときは、どこにかげがあるかを気にしてみましょう。かげのつながる道をえらべば、同じ道のりでも、ずっと楽に歩けるはずです。

（この問題のための書き下ろし）

問一　日なたにいるとき、わたしたちの体には何が当たっていますか。本文から十字までで書きぬきましょう。

問二　「上からも下からも、あたたまりにくいのです」とありますが、「下から」あたたまりにくいのはなぜですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　黒いふくを着ていないから。
イ　木の葉が、水を空気の中に出しているから。
ウ　日かげの地面は光を受けていないので、日なたほど熱くならないから。

問三　木のかげが、とくに気持ちよく感じられるのはなぜですか。「水」「熱」という言葉を使って、四十字までで書きましょう。

問四　最後のまとまりで、筆者は、かげのつながる道をえらぶとどうなると言っていますか。「～はずです」につづくように、本文から十五字までで書きぬきましょう。